教えの庭から

宇宙のことを思う

出雲市斐川町・仁照寺住職　江角　弘道

本紙1月24日付の「明窓」欄で取り上げられていた「ＯｒｉＨｉｍｅ（オリヒメ）とわたし」の執筆者三好史子さんは、筋肉萎縮が起こる難病を患い、筋力がないため、服もスマホもペットボトルもとても重い、体も重くとても疲れて困っていることが書かれていました。三好さんは、宇宙は無重力なので、宇宙で生活できれば今の不自由さから解放されて生きやすくなるだろうと、夢想することがあるとのことです。また月の重力は地球の6分の1程度なので、月も生活しやすそうだと書かれていました。そして、「宇宙に行ったり、ほかの惑星で生活したりという、人類が長く夢見てきたことが実現したら、もしかしたら身体障害という言葉がなくなる日がくるかもしれません」と書かれていました。三好さんは、宇宙のことを思い、そこで生活を夢想することで、心に安らぎを見いだしておられます。

「あたりまえ」の正月を迎えると思っていましたが、1日には、能登半島の地震があり、2日には、日航機と海上保安庁の航空機事故があり、正月気分はなくなりました。世界ではロシアとウクライナの2年越しの戦争、そしてイスラエルとハマスの戦争なども終結の見通しが立っていません。このような時だからこそ、空を見上げて宇宙を思い、少しでも心に安らぎが得られたらと思います。

挿絵　平尾恵郷

昔から、偉大な人は宇宙を見つめ、そこに真理の発見とか安らぎを見いだしていました。お釈迦様は、明けの明星を見上げて、縁起の法を悟られました。空海は室戸岬で修行時に、明けの明星が口から体中に入り、宇宙と一体になれたという体験をされたとのことです。

一方、私たちの命を見つめてゆくと、宇宙に至ります。この命は両親があって生まれたものであり、ここで2人の命が関係します。これを遡（さかのぼ）ってゆくと、莫大（ばくだい）な人の命が関係します。その人たちの命のバトンタッチがうまくいったから、今日の私たちがいます。70万年前に地球上に人類が出現しました、そして40億年前に最初の生命体が誕生しました。その生命体は、あり得ないほどの極小の確率で物質粒子から誕生しました。その物質粒子は、光から対生成で生じました。その光は、138億年前の宇宙のビッグバン（大爆発）から生じたものでした。

私たちの命は、自分で作った命ではありません。138億年前に宇宙ができたときから準備されている無数のご縁によってつながってきた命です。だれも宇宙から生まれてきた「光の子」です。自分のいのちは、宇宙の無数の縁によって生かされています。仏教では、「十方三世一切仏」という言葉が出てきます。十方とは、東西南北の四方と、北西・南西・北東・南東の四維、上下の空間のことを言い、三世とは、過去現在未来の時間を言います。あらゆる空間・時間（宇宙）にわたるすべての仏さま（先祖さまを含む）に感謝します。宇宙を思うと生まれ故郷を思うようになり、不思議な懐かしさ安らぎを感じます。

日本の無人探査機「ＳＬＩＭ」は1月20日未明、世界で5カ国目となる月面への着陸に成功しました。この成功が、宇宙に対する夢と希望を与えるきっかけとなると思います。さらに、月には多くの水が存在すると推測されています。将来の月での生活もありえるでしょう。宇宙は夢のある場所であり、それを思うことで、癒やされます。